



# むきばんだムラの「食」事情

むきばんだ史跡公園では、全国屈指の規模を誇る弥生時代の集落遺跡である妻木晩田遺跡の集落像を明らかにするため、継続して発掘調査研究を続けてきました。今回の企画展では、弥生時代の食料事情について取り上げます。人間が生きていくために「衣・食・住」は欠かせませんが、特に「食」は私たちの生死に直結しています。

弥生時代も重要であった「食」を通して、弥生時代のむきばんだムラの生活を見ていきましょう。

## 食料を手に入れる

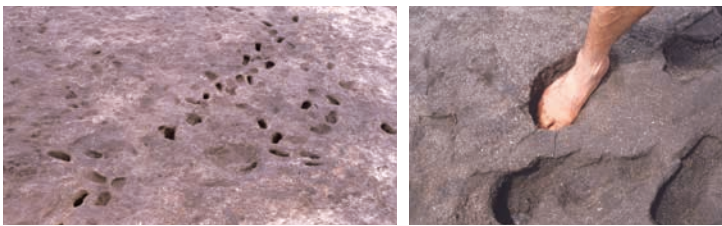
### 弥生時代の食の痕跡 ～稲作と狩猟採取・漁労～

妻木晩田遺跡では、これまでに食料の生産にかかわる水田や畠などの遺構は見えていません。しかし、集落の住居跡や貯蔵用の土坑からは、炭化米や稲穂の摘み取りに使用した石庖丁が見つかるため、妻木晩田のムラ人も周辺の平地や谷部などで米作りをおこなっていたと考えています。

米子市域では、平地の発掘調査によって弥生時代の水田跡が発見され、鋤や田下駄などの木製の農具が出

土しています（目久美遺跡、池ノ内遺跡、図①）。

このほか、妻木晩田のムラの弥生人は、周辺の森で野草やクリなどの木の実を採集し、鹿や猪などを狩っていたと見られます。また、海や川などで漁労をおこない、魚介類を採取していました。これら狩猟や漁労には、弓矢や籠、漁網、落とし穴などの罠を用いていたと考えられ、妻木晩田遺跡内では石鏃や石錘など狩猟・漁労に関する遺物が発見されています。（図②）



▲弥生時代の水田遺構の全景と足跡（目久美遺跡）

▲弥生時代後期の水田（池ノ内遺跡） ※写真はすべて米子市教育委員会提供

図① 米子市内で発見された弥生時代の水田跡



※井出谷遺跡や福岡遺跡では水田跡は見つかりませんが、木製の農具などが出土しています。

図② 妻木晩田遺跡から見た弥生時代の淀江平野の景観

# おいしい御飯を炊く方法 ～食事にかかわる道具と調理法～

弥生人が用いた調理器具は土器（粘土を焼き固めた器）です。土器には形によって様々な用途があったと考えられ、その中で甕がコメを炊いたり、肉や魚介を煮込んで汁物をつくる「鍋（土鍋）」のような調理器具として使われました。煮炊きのほかは、火にあてて炙って（焼いて）食べていたか生食だったと考えられます。

妻木晩田遺跡では、炭化したものを除き、収穫された食材や調理されたもの自体が残っていることはありませんが、調理に使用した土器に煮炊きした際のおこげの跡など、調理の痕跡が見られることがあります。弥生時代の炊飯方法は、現代の炊飯器のような「炊き干し法」ではなく、「湯取り法」を用いていた説があります。（図③）



## 【弥生時代の食器】

食器には、土器と木器があり、高杯（杯）が器として使われました。青谷上寺地遺跡（鳥取市）など低地の遺跡では、木製の高杯が出土しています。そのほかにも、スプーンに似た木製品（匙）が出土することがあります。中国の書物『魏志倭人伝』には、弥生時代の倭人の食事の様子に、高杯を使い、手づかみで食べていた記述があり、熱い汁物などは木製のスプーンを使っていたのかもしれませんが。



▲土器に残る調理の痕跡（妻木山地区 SI172 出土） ▲湯取り法の手順

## 【炊飯方法の違い】

炊き干し法…コメの量に対して決まった量の水を使い、水がなくなるように蒸し炊きをします。現代の炊飯器の炊き方です。

湯取り法…たっぷりの水にコメを入れて加熱した後、余分な水を捨てて水分を飛ばします。

▶湯取り法で炊飯実験した際の重湯の流れた跡（白いすじ）



▼木匙（左）と高杯（右）



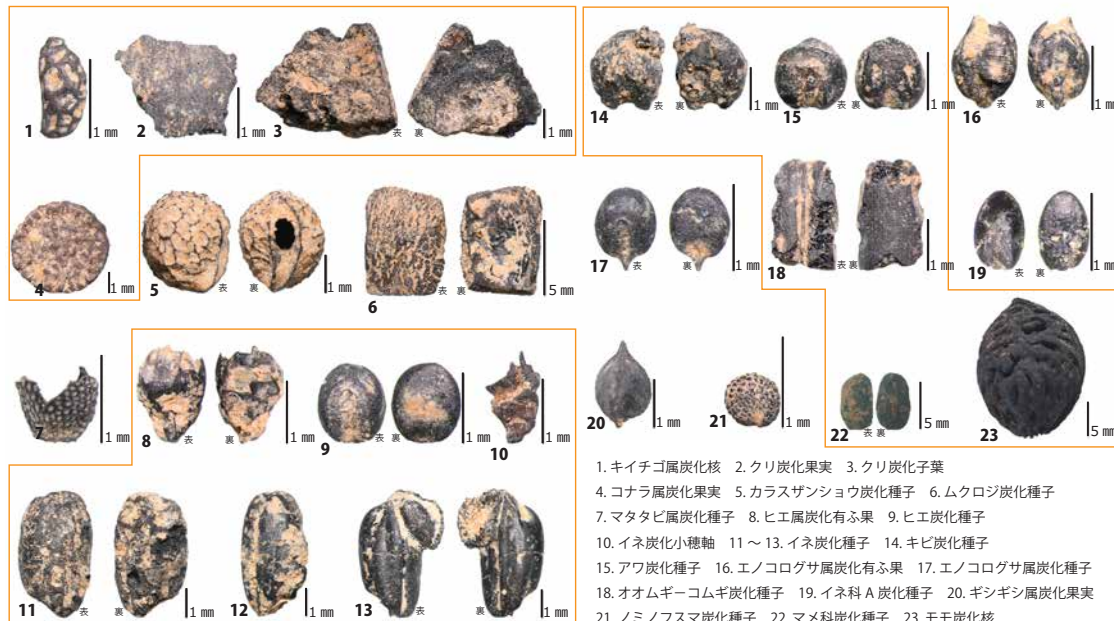
※とっとり弥生の王国推進課青谷上寺地遺跡整備室提供

図③ 土器に残る調理の痕跡とコメの炊き方

図④ 弥生時代の食器

## コラム：妻木晩田遺跡から見つかる食料～炭化種実～

妻木晩田遺跡は丘陵上という乾きやすい立地と酸性の土壌から、食料の残り物や骨などが残りにくい環境にあります。しかし、コメやアワなどの穀類やドングリやクルミなどの堅果類といった植物の種実が火を受けて炭化した場合は、腐ることがありません。そのため、妻木晩田遺跡の堅穴住居跡や食料を保存した貯蔵穴などからは、炭化した種実（炭化種実）が多く発見されています。



## <確認総数>

イネ	1222
キビ	40
キビかヒエ	4
ヒエ	36
アワかヒエ	13
アワ	161
ムギ	2
計	256
マメ	140
モモ	353
クリ	20
コナラ	37
ブナ科	23
コナラ属-シイ属	6
計	66
カラスザンショウ	7244

1. キイチゴ属炭化核
2. クリ炭化果実
3. クリ炭化子葉
4. コナラ属炭化果実
5. カラスザンショウ炭化種子
6. ムクロジ炭化種子
7. マタタビ属炭化種子
8. ヒエ炭化有ふ果
9. ヒエ炭化種子
10. イネ炭化小穂軸
- 11～13. イネ炭化種子
14. キビ炭化種子
15. アワ炭化種子
16. エノコログサ属炭化有ふ果
17. エノコログサ属炭化種子
18. オオムギコムギ炭化種子
19. イネ科 A 炭化種子
20. ギンギン属炭化果実
21. ノミノフスマ炭化種子
22. マメ科炭化種子
23. モモ炭化核

※枠で囲ったものは食用植物。表・裏は任意。

※破片及び可能性のものを含む。  
谷部調査で確認した非炭化の種実を含む。  
※カラスザンショウは虫除けの効果があるといわれ、堅穴住居跡や土坑などさまざまな遺構で確認できる。

食料を蓄える方法 ～貯蔵用施設・高床倉庫と穴倉～

弥生時代に生産するようになったコメなどの食料は、収穫期に大量に獲得できる一方で、長時間保管する必要があります。そのため、米作りの始まった弥生時代には食料保管の技術が進みました。

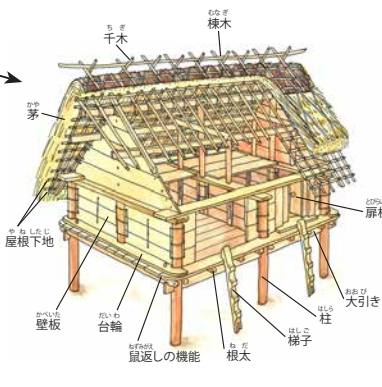
弥生時代の貯蔵用の遺構として、高床倉庫と穴倉があります。高床倉庫は、掘立柱建物の中で倉庫として使用されたと推定されるものです。一方、穴倉は、地下に設けられた貯蔵施設であり、貯蔵穴と呼ばれます。

妻木晩田遺跡では掘立柱建物は柱穴しか確認できていません。そのため、史跡公園内に復元された高床倉庫は、青谷上寺地遺跡から出土した建築部材や弥生時代の土器に描かれた絵(絵画土器)などを参考にして、柱穴の間隔が広く比較的大きな掘立柱建物は収納能力の高い板壁づくり、小さいものは

屋根倉風として復元しています。(図⑤)

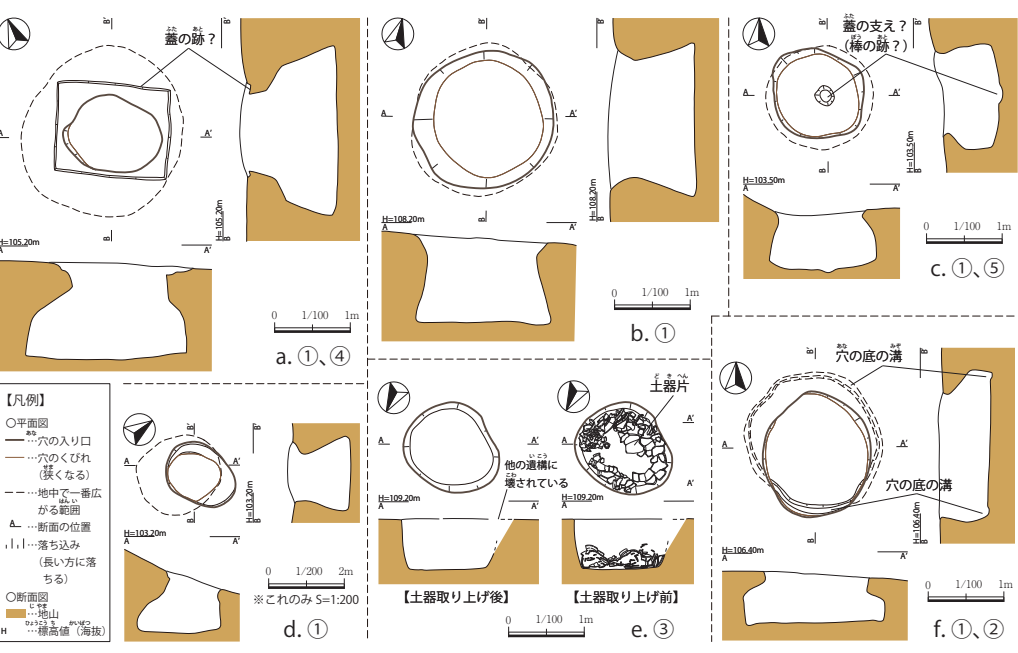
高床倉庫とともに使われた穴倉(貯蔵穴)は、断面形状が袋状、台形状、横穴状で、底に溝や穴を伴う土坑(地面に掘られた穴)であり、高床倉庫に比べて簡易な貯蔵施設です。(図⑥)

高床倉庫は1棟で多くの物資を保管することができますが、平坦な場所と大量の材料が必要であり、人手と時間もかかります。一方、穴倉は、高床倉庫と比較して容量が小さく、湿気がこもりやすいため傷みやすい食料の長期保存には向きませんが、穴を掘るだけのため場所も資材の制約もなくすぐに使用できます。また、木材を使う高床倉庫は燃えやすく火災の心配がありますが、穴倉は火災の心配が少なく、非常用としても使えました。



- 【高床倉庫の特徴】**
- ①床が地上の高い位置にある風通しがよくなり、食材のカビの発生を抑え腐りにくくします。
  - ②「鼠返し」を持つ柱よりも外にせり出すことで、食料を食べる小動物の侵入を防ぎます。

図⑤ 妻木晩田遺跡で復元された高床倉庫(高床倉庫の機能と構造)



- 【貯蔵穴の工夫】**
- ①底面積を広く取ることでより多くの物資を入れられるように工夫されています。
  - ②底面に溝を持ちます。貯蔵穴内の湿気を集めるため(防湿)の工夫と考えられます。
  - ③底面と収納物が触れないように割れた土器の破片を敷き詰めた可能性があります。
  - ④貯蔵穴の入り口は木の板などで蓋をしたと考えられ、蓋の跡が四角く残っています。
  - ⑤底面の穴は、蓋が落ちないように支えた棒の跡の可能性もあります。



- a. 松尾頭地区 SK71 (弥生時代後期中葉)
- b. 妻木新山地区 SK146 (弥生時代後期中葉)
- c. 松尾頭地区 SK87 (弥生時代中期後葉)
- d. 松尾頭地区 SK91 (弥生時代後期後葉)
- e. 妻木山地区 SK17 (弥生時代終末期後半)
- f. 松尾頭地区 SK106 (弥生時代後期前葉)

図⑥ 妻木晩田遺跡で発見されたさまざまな貯蔵穴

\* SK…土坑の略記号。 \* 大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・大山町教育委員会編 2000に掲載された遺構実測図を再トレース。

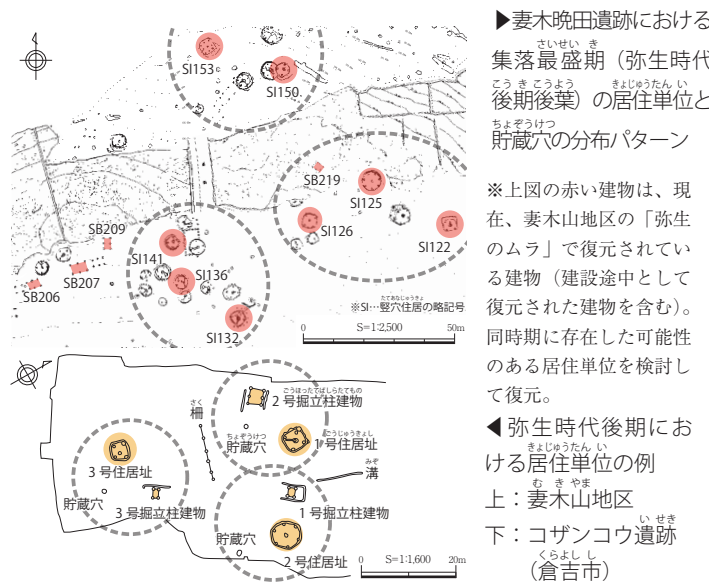
# 食料を保管する②

## ムラの食料生産と管理

特に水田を用いたコメの生産に関わる作業は、水路や畔の整備など大規模な土木工事を伴うため、ひとりでの作業は難しく、大人数での共同作業になります。そして、得られた大量の食料は、長期間管理しながら毎日の必要分を食べ、加えて狩猟採集や畠作で得られる食料で生活していました。大人数で生活していくためには、貯蔵施設を用いた計画的な食料の管理が重要になります。

県内の弥生時代後期後葉の集落遺跡の事例を見ると、**貯蔵穴住居1棟に対して掘立柱建物1棟と1つの**

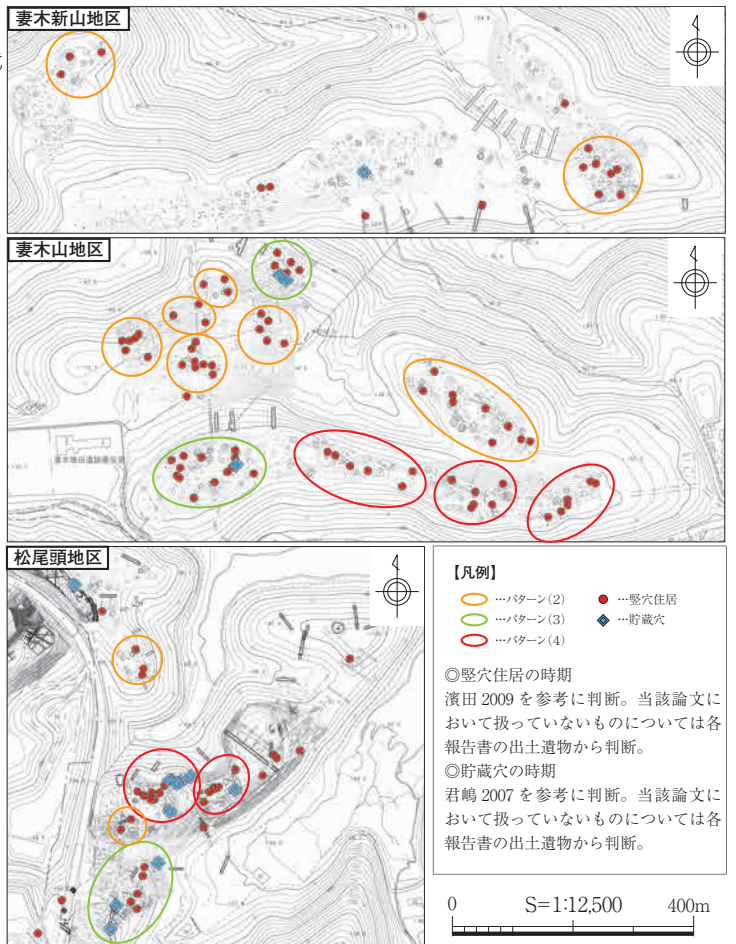
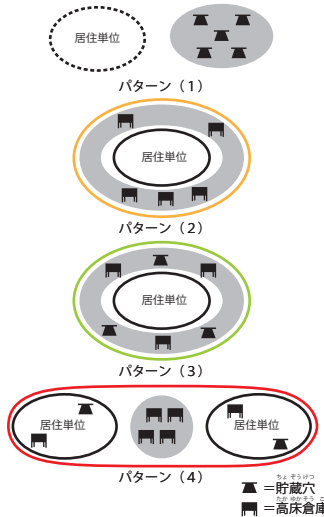
**貯蔵穴を伴うものが区切られた一定範囲に存在しており、これが集まって集落になっています。**妻木晩田遺跡は多くの**貯蔵穴住居**が確認できる大規模な集落遺跡ですが、細かく遺構配置を見ると**3～5棟の貯蔵穴住居のまとまりが見られることから、これがひとつの「居住単位」と考えられます。**居住単位ごとに貯蔵穴をみると、貯蔵穴を伴うものと伴わないものの両者が存在します。よって、各居住単位は**主な貯蔵用施設として高床倉庫を所有し、貯蔵穴は高床倉庫を補う形で使用されたと考えられます。**(図⑦)



**パターン(1)**…住居から離れた場所に貯蔵穴が集中して分布する。  
**パターン(2)**…居住単位に高床倉庫のみが伴う。高床倉庫は住居の分布に沿うように配置される。  
**パターン(3)**…居住単位に高床倉庫と貯蔵穴が伴う。高床倉庫は住居の分布に沿うように配置される。  
**パターン(4)**…居住単位からやや離れた場所に高床倉庫を伴うとともに、住居に近接して少数の貯蔵穴、高床倉庫を伴う。

※パターン(4)は共同管理された高床倉庫。これを持つ居住単位は集落の中で階層が上位の可能性。

▲貯蔵施設と居住単位の分布パターン(君嶋 2007 掲載図を再トレース)



### <集落最盛期に想定されるパターン>

【妻木新山地区】

パターン(2)

【松尾頭地区】

パターン(2)、パターン(3)

パターン(4)

※貯蔵穴は時期不明のものがあり、この分布図からでは表示していない。

【妻木山地区】

パターン(2)、パターン(3)

パターン(4)

図⑦ 妻木晩田遺跡における食料管理

企画・実施 鳥取県立むきばんだ史跡公園

住所 〒689-3324 鳥取県西伯郡大山町妻木1115-4

電話 0859-37-4000 ファクシミリ 0859-37-4001

※この展示概要資料は、令和3年8月1日から11月28日まで、鳥取県立むきばんだ史跡公園内の調査研究棟企画展示室で実施した企画展示の内容をまとめたものです。

<参考文献>

君嶋俊行 2007 「妻木晩田遺跡における貯蔵穴について」『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報2006』鳥取県教育委員会 pp51-56.

大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・大山町教育委員会編 2000 『妻木晩田遺跡発掘調査報告書』

濱田竜彦 2009 「山陰地方の弥生集落像」『国立歴史民俗博物館研究報告』第149集 pp233-310.

